



南関から日の出を望む

撮影：山田吉勝

## 新年のご挨拶



米の山病院長

橋口俊則

明けましておめでとうございます。皆様が健康で安心して暮らせる平和な一年でありますように祈念申し上げます。

昨年、日本医療機能評価機構の認定病院になり、安全・安心・信頼の医療を更に前進させる足がかりができました。10月に取り組んだ「高齢者生活実態調査」では、医療・介護の改善のみならず、暮らしを直撃する負担増が深刻な影響を及ぼしている実態が明らかになっていきます。これからの医療・介護改善の貴重な資料となりました。皆様からのご支援やご鞭撻に深く感謝を申し上げます。

今年は、憲法が施行され60年になります。憲法9条をはじめ日本国憲法が益々輝きを増している中で、「戦争ができる国づくり」が急速に進められています。教育基本法改悪の強行採決はその先鞭と考えます。人類の生命と健康を破壊する戦争政策に反対して頑張ってきた私たち民医連は、いまこそ、平和を守っていかなくてはならないと強く決意しています。

民医連が提出した看護師増員の請願は国会で採決されました。それも全会一致です。看護師の役割、その増員を求める国民の声を各党が無視できなくなってきたのではないのでしょうか。私たちは、この取り組みが国の政策を動かしたことに確信を持ちました。

今年は、看護師だけでなく医師増やせの運動を新たに大きく広げるとともに、地域の医療機関や施設との連携強化で、地域医療を守り、安心して医療や介護・福祉が受けられるまちづくりをさらに前進させたいと考えます。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



# 今求められる地域医療連携

去る11月6日に親仁会の全医師会議において、大牟田医師会長の西村直先生より「地域医療連携について」ご講演を頂きました。その中で「地域医療を守るためには医療機関の連携が不可欠である」と親仁会への期待」が強調されました。

医師をはじめ事務幹部など30名以上が参加し、メモをとりながら、熱心に聞き入っていました。また、医師会に対する率直な質問も出され、有意義な交流の場となりました。

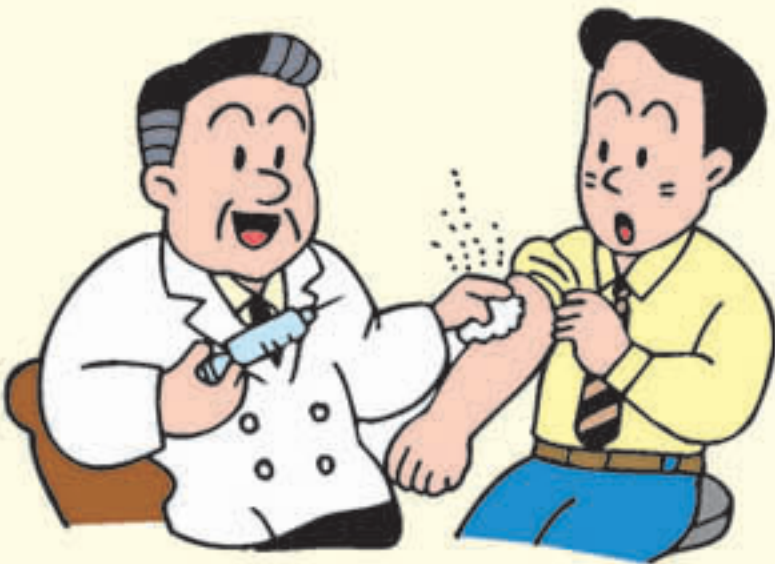


大牟田医師会会長  
西村直先生

なぜ今、医療連携が求められているのでしょうか。医療を受ける側の視点と医療提供側の視点の二つの面から見ていく必要があると思います。

医療を受ける側から見ると、出来る限り最新の医療を受けたという願望があるのは当然でしょう。そのため、最新の医療機器と専門科が揃った大病院指向になるのは充分理解できます。

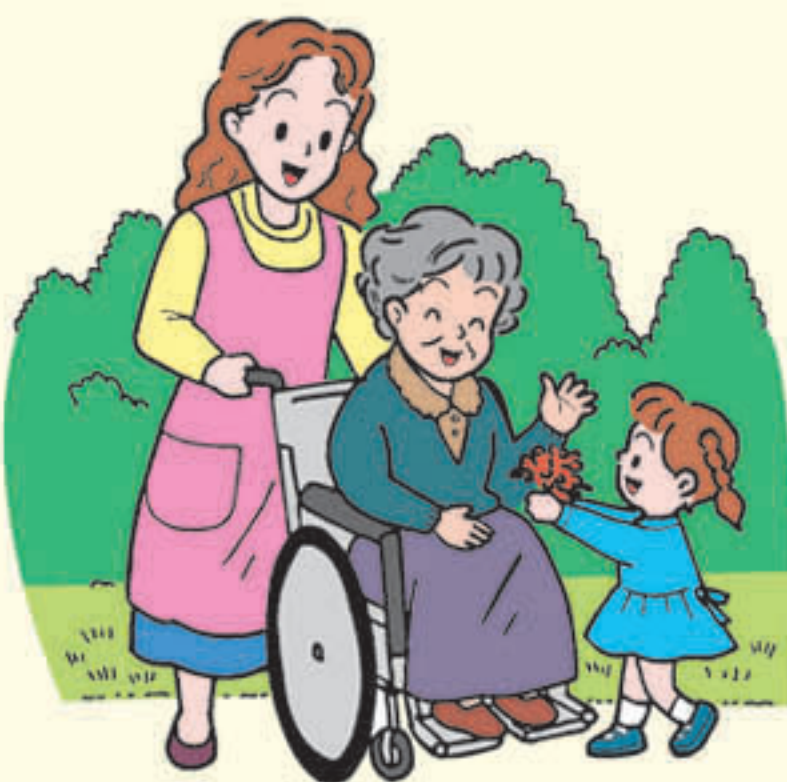
しかし、果たしてそれが患者さんの幸せに繋がるのでしょうか。そのことを、医療提供者側も考えてあげなければなりません。三時間待ちの三分診療と揶揄される患者さんの負担・損失が医療提供側からみても理想の姿とは言えないと思います。もっと身近で気軽に相談できる「かかりつけ医」がいて、ゲート・キーパーとして初期医療を担当し、必要に応じて専門医にお



願いすること、効率的・効果的医療提供体制を創ってあげる。ことが、「患者さん中心」の医療と言えるのではないのでしょうか。医学・医療は日進月歩発展・進化しています。医療は細分化され、専門分科が進んでいます。当然のこととして、全ての領域で専門的知識を習得することは不可能です。そこで医療機能の分担と連携が必要になってきます。患者さんに安全・安心の医療提供体制をつくることで、患者さんからの信頼も厚くなります。個々の患者さんにとって最新・最善の医療を提供するためには、それぞれの医療機関が専門知識・技能を分担し連携して対応していく体制を構築する必要があります。その地域にある最新・最善の医療を効率よく、最適に提供するためには、自己完結型医療から地域完結型医療



への転換が求められています。そのため、大牟田医師会では、2年前に大牟田・高田医療連携推進プロジェクト会議を立ち上げ、今年の7月から空きベット情報をネットワーク医療機関に配信しています。紹介・逆紹介していくためのドクターをはじめとした医療機能情報も必要でしょう。これらの情報がリアルタイムに伝わるためのIT化の検討もしなければなりません。これからの地域医療提供体制の更なる充実のため、知恵を出し合い協力していくことが、地域医療を担う我々に課せられた課題であり責任と考えています。今後共よろしくご指導とご協力をお願い致します。





# 肌で感じた地域の実態



今年の月間は「今こそ地域に打って出て、守ろう医療・平和・くらし、広げよう共同と連帯の輪を！」をスローガンに掲げ、10月～11月の2ヶ月間にわたって職員と友の会とが連

携をはかりながら取り組みました。

その結果、友の会員拡大は212世帯、「いつでも元気」拡大は27部、班会開催は28回、「健康チエック」は6回（延数で350名の方が受診）になり大きく前進しました。

また今年の月間は「高齢者医療・介護・生



活実態調査」が新たに位置づけられ、友の会員の中から無作為に抽出した65歳以上の方を対象に168世帯の訪問調査活動を行いました。

この調査の中で、私たちの住んでいる大牟田でも「格差社会」や「貧困」が急速に拡大していることがわかりました。地域から医療・介護改悪による犠牲者を出さない取り組みを友の会の皆様とさらに強めていきましよう!!



## センター事業団 大牟田事業所

おめでとう

# 全国大会優勝!!

全国病院清掃コンテスト



こんなに立派な賞を頂いて本当にうれしいです。

感謝の気持ちでいっぱいです。これもひとえに多くの先輩方の努力のおかげ、又親仁会の方々のご指導の賜物だと思えます。これまで長年培われてきたものを大切に守り、育て、お互いに協力し、頑張って院内外の環境整備に励みます。

どうぞよろしくお願いします。

所長 新本



おせちに飽きたら

# たい茶漬け



管理栄養士  
垣田 あゆみ



## 材料 (1人分)

漬け汁	鯛(刺身用) ……5切れ	白ネギ ……1/2本
	だし汁 ……60cc	小ネギ ……少々
	濃い口しょうゆ ……20cc	炒りゴマ ……小さじ1
	みりん ……20cc	刻み海苔 ……少々
	ご飯 ……茶碗1杯	煎茶 ……適宜
	ごま油 ……少々	

だしは、1000ccの水に、かつお節20g、だし昆布5cm×4cm程度を目安に。

## 作り方

- 鯛の漬け汁を作る。だし：濃い口：みりん=3：1：1の割合で鍋に入れさっと沸騰させ、冷ましておく。
- 鯛は5mmくらいのそぎ切りにし、冷めた1)に漬け込んでおく。
- 白ねぎを5cm幅に切りそれを細切りにして、水につけ白髪ネギをつくる。小ネギも切っておく。
- 熱したフライパンにごま油を少々落とし、ご飯を平らにして焦げ目を付ける。
- 4)を器に入れ、2)の鯛、3)の白髪ネギ、小ネギ、刻み海苔、すりゴマを盛り付ける。
- 2)の付け汁をスプーン2～3杯ほどかけて、煎茶を注いでできあがり。



## クイズ 頭の体操

正しいのは、aとbのどちらでしょう？

- 母は長女なので、**おば**と私は、たった6才しか違わない。  
a. 叔母 b. 伯母
- 思ったより早く**かいふく**し、一昨日退院いたしました。  
a. 回復 b. 快復
- 犯人を**つききゅう**したら、意外な事実が出てきた。  
a. 追求 b. 追及
- 彼の報告は、要点を**てきかく**に示している。  
a. 的確 b. 適確
- 子供の**いし**は、尊重しよう。  
a. 意志 b. 意思

No.18 (11月1日号)の答は「くにがまえをつけても漢字になる」でした。

正解者は10名でした。正解者の中から抽選で5名様に粗品を進呈します。江口正裕様(高田町)、津波古八重子様(大牟田市)、松藤義昭様(柳川市)、平島史朗様(大牟田市)、松清紀子様(大牟田市)

### 応募のしかた

答えを紙(ハガキ)に書いて、送っていただくか受付までお持ち下さい。FAX、メールでも可。〆切は2007年1月末日。正解者の中から抽選で5名様に粗品を進呈します。

機関誌や米の山病院についてのご感想、ご意見などもお寄せ下さい。

## 中学生、病院一日体験

11月14日、米の山病院では勝立中学校より、中学生一日体験として「豊かな心、幅広い視野、それぞれの志を持つアンビシャスなたくましい青年の育成」をテーマに、回復期リハビリテーション病棟、米の山デイサービスで受け入れを行いました。車椅子体験、集団レクレーションにて縦笛の披露、紙芝居、入院中の患者様とのコミュニケーション、食事風景の観察など、時間は限られていましたが、直接患者様と触れ合うことが出来、生徒さんたちは多に医療福祉に関心をもってくれたようです。



集団レクレーションの様子